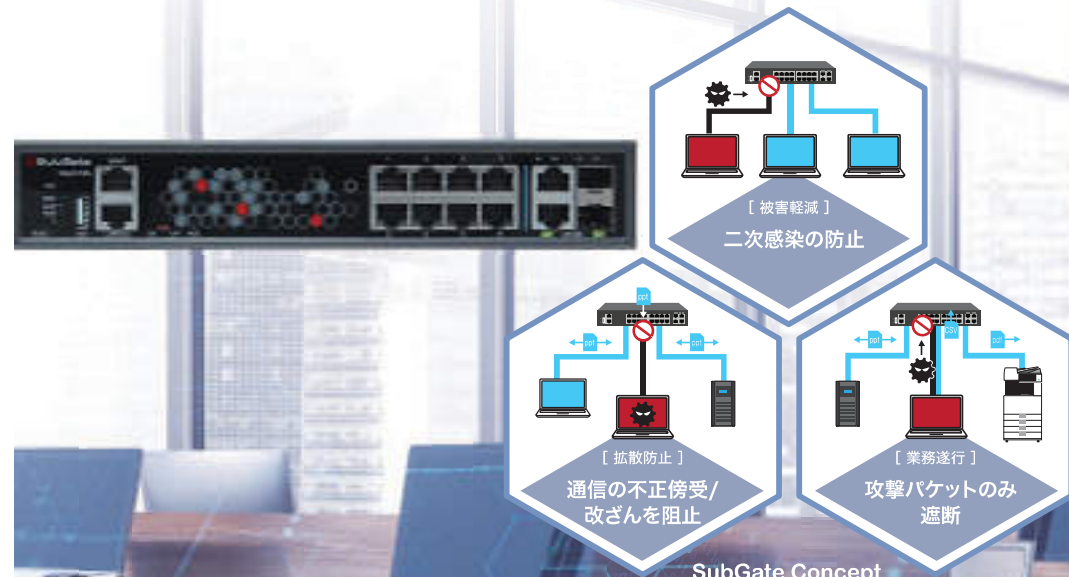


テレワーク環境におけるセキュリティ強化を後押し

テレワークにより、業務端末が社外で利用されるシーンが増えることにより、これまでのオフィスのネットワークからの侵入だけでなく、持ち込み端末からの二次感染などのリスクを検討する必要があります。SubGate製品はこういったシーンでも大きな力を発揮します。



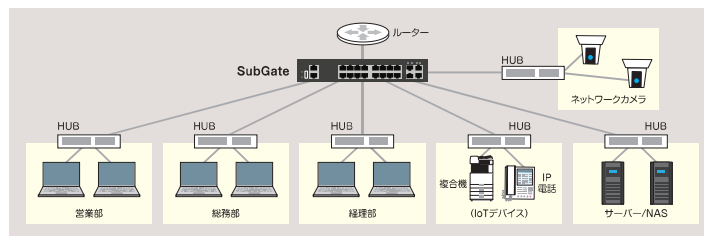
ネットワーク内での拡散を防ぎ、
感染後の被害を最小限にとどめて
業務の円滑な遂行を維持する。



SubGate 構成例

SubGateの設置場所は大きく分けて2パターンあります。メインスイッチをSubGateに置き換えると島ごとの拡散を防止対策となり、HUB代わりにSubGateを設定すると、デバイスごとに拡散防止が可能となります。

■メインスイッチをSubGateへ [拡散防止はHUB単位]



■各島ごとにSubGateを設置 [拡散防止は端末(デバイス)単位] ※1ポートに1台接続の場合

